導入ゼミ第２回懇談会記録

日時：2009 年 9 月 28 日（月）
場所：情報処理第２演習室
出席者：杉村センター長，菊沢教授，北村教授，フィアラ教授，加藤准教授，津村准教授，石原講師，徳野講師，交野副学長，本田教授（看護福祉学部），黒川講師（生物資源学部），松岡講師（生物資源学部），澤崎先生（仁愛大学，福井高専非常勤講師），山川教授，木村教授，黒田講師

１．導入ゼミ実践例の紹介

（１）杉村教授による導入ゼミ実践例の紹介

学生が自分の興味のあるテーマを選択・決定し，内容として充実したレポートを書けるようにするためにどのような工夫を行っているか，という点を中心に，授業実践例が紹介された。

（２）石原講師による導入ゼミ実践例の紹介

レポート（最終的に卒論）の作成力の構成要素として，情報収集，文献理解（講読），データ収集と分析，文章執筆などのスキルに注目し，それらのスキルを系統的に指導する実践例が紹介された。

２．ディスカッション

「今後の導入ゼミの内容をさらに向上させるために，現状においてどのような問題点があり，それに対して今後どのような工夫や改善点が考えられるか」というテーマで，参加者同士で議論された。

（１）学生のレポート作成のスキルとレポート内容について

①学生にレポート作成の方法（表紙をつけることやページ番号の記載といったレポートの初歩に関することから，レポート構成・引用文献の掲載といった基本に至るまで）を，丁寧に指導しているが，最終レポートをみると，レポートの初歩すら守れていない学生が散見されるという問題。

・レポート執筆の必要事項を教員が講義するのでなく，学生自身に必要なことを気付かせるために，受講学生に過去の学生のレポートを（名前を伏せて）提示し，悪い点・良い点を学生同士で相互評価させるという工夫をとっている。しかし，それにも関わらず，

最終レポートで必要事項がもれる学生がいる。
・採点基準を学生に明示し，伝えることで，上記の問題の改善をさらに図ってみてはどうか。

②導入ゼミにおいて，レポートの内容を重視するか，形式を重視するかの問題について
・形式を重視しすぎるのは，形式だけ整っていればよい（レポートは簡単にできてしまう）という考えが学生に生まれ，問題ではないか。やはり，２年生以降のことを考えると，きちんとしたプロセスをたどることでレポートは出来上がるということを学生がきちんと理解し，学生がレポート内容を充実させていこうとすることが必要ではないか。
・形式を重視するにしても，作成手順をきちんと系統的に学ばせ，レポート執筆のプロセスや労力をきちんと学生に理解させていく必要がある。
・一口に形式といっても，どのようなものを想定するかにより，それを重視するのが良いか悪いかが変わってくる。構成や論理性といったものも形式として含め，それを指導するようにすれば，ある程度内容面でも良いものとなっていくのではないか。
・ネットからの切り貼りを認めるか否か。出典の明示を条件とすれば、よいのではないか。
・情報取得の方法や情報の性格については、新聞記者（卒業生）を招いて話をしてもらい、その内容に基づいたレポート作成をさせた。

③レポートの内容やスキルを高めるための工夫の例
・課題として提出された学生のレポートの内，良いものを見本として学生に見せている。学生にとっては，教員から良い見本を示されるよりも，自分にとって身近な人の見本を見せられた方が，内容やスキルの向上の面でも，モチベーションの面でも効果があるのではないか。

（２）プレゼンテーションについて

①プレゼンテーションにおいて「聞き手である学生」の関与や学習効果を高めるにはどうすればよいかという点について
・発表者だけでなく聞き手である学生をプレゼンテーションに巻き込むための工夫が必要。
・石原講師の発表にあったように，評価シートを作成し，プレゼンテーション時に聞き手の学生に発表を評価させるという工夫は，聞き手の関与や学習効果を高めるために有効な工夫である。
・また，発表者だけを決めるのではなく，プレゼンテーションの司会進行役，書記係，質問係などの役割を学生に与えることは，発表者以外の学生のプレゼンテーションへの関与や聞く能力を高めるために有効な工夫である。

②プレゼンテーションの時間の問題について

・プレゼンテーションにあまり多くの授業回数を割きすぎることは，授業進行や学生の学習効果の面で，良くないのではないか。グループ発表にする，あるいは，１人あたりの発表時間を短くするなどの改善が必要ではないか。

（３）ディスカッションの評価の仕方や進め方について

①ディスカッションをしている学生をどう評価するか（どう成績評価に結びつけるか）について

・学生のディスカッションは，学生の「書く」（ライティング）スキルではなく，「話す」（オーラル）・「聞く」スキルを育成し，それを評価する機会となりうるが，ディスカッションにおける学生の発言を，何を基準にして，どう評価するかは，難しい問題である。

・学生の発言を，（授業に対する取り組み）姿勢や授業態度の指標として，回数を評価するやり方をとっている。

・主体的な発言と指名による発言（籤引きなどによる）では評価点を変えている。

・学生の発言を評価する目的により，発言回数に注目するか，発言内容に注目するかが決まってくるのではないか。

・ディスカッションにおける学生の発言の多寡は個人の資質に左右されるため、評価に取り入れることはできない。

（４）その他の事項

①レポート執筆にしても，プレゼンテーションにしても，一度で終わるのでなく，複数回することが（レポートであれば，教員が添削し，それを踏まえて次のレポートを作成する，プレゼンテーションであれば，何度かプレゼンテーションをやってみることが），テーマ内容への興味およびレポート内容を高めたり，プレゼンテーションにおけるスキルを高めるために必要ではないか。

②導入ゼミでは，レポートやプレゼンテーションに関わるスタディ・スキルだけでなく，他者の話を聞く姿勢や態度などの面も教育していく必要があると思うが，どうやったらそれを高められるか。

・学生同士のグループワークや相互評価を導入する工夫が考えられる

・グループワークを必須にする必要はないが、最初の段階で取り入れるとコミュニケーションが円滑になり、後のゼミが進めやすい。

・ディスカッションで発表者と聞き手だけでなく，司会進行役，書記係，質問係などの役割を決めて学生にさせるといったように，教員側が学生の姿勢を高めるための「枠」を作っていく工夫も必要

③導入ゼミの役割としては，２年次以上の専門教育に役立つということが重要ではないか。

④欠席を防ぎ、参加を促す手だてとして、（２）①参加者に評価をさせる、学生同士で連絡網を作り、欠席者に連絡をとる、などが考えられる。

（５）今後に向けて

導入ゼミの全般的な向上に向けて，各教員のノウハウや資料・ツールを導入ゼミ担当教員が共有できる仕組みを作っていきたい。